

ICT活用工事（舗装工）積算要領

1. 施工パッケージによる積算

施工パッケージによる積算基準の舗装工（ICT）により積算を行う。

2. ICT建設機械経費加算額

建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用は、以下のとおりとする。

（1）ICT建設機械経費加算額（モータグレーダ）

49,000円／日

3. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

3－1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

（1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.18(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m}^2\text{)} \times \text{層数}}{\text{作業日当り標準作業量(m}^2\text{/日・層)}}$$

（注）作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。

3－2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

（1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

対象機械：モータグレーダ

623,000円／式

3－3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。

(参考)

施工パッケージ舗装工 (ICT) については、以下の考え方により施工パッケージ舗装工の標準単価 P を補正し、 P_{ICT} としたものである。

1) 施工パッケージコード

P'	: 積算単価・積算地区、積算年月・
P	: 標準単価・東京地区、基準年月・
K_r	: 標準単価における全機械・ $K1 \sim K3$, 他の構成比合計
$K1r \sim K3r$	: 標準単価における代表機械規格 $K1 \sim 3$ の構成比
$K1t \sim K3t$	: 代表機械規格 $K1 \sim 3$ の単価・東京地区、基準年月・
$K1t' \sim K3t'$	: 代表機械規格 $K1 \sim 3$ の単価・積算地区、積算年月・
R_r	: 標準単価における全労務・ $R1 \sim R4$, 他・の構成比合計
$R1r \sim R4r$	: 標準単価における代表労務規格 $R1 \sim 4$ の構成比
$R1t \sim R4t$	: 代表労務規格 $R1 \sim 4$ の単価・東京地区、基準年月・
$R1t' \sim R4t'$	: 代表労務規格 $R1 \sim 4$ の単価・積算地区、積算年月・
Z_r	: 標準単価における全材料・ $Z1 \sim Z4$, 他・の構成比合計
$Z1r \sim Z4r$	: 標準単価における代表材料規格 $Z1 \sim 4$ の構成比
$Z1t \sim Z4t$	: 代表材料規格 $Z1 \sim 4$ の単価・東京地区、基準年月・
$Z1t' \sim Z4t'$	: 代表材料規格 $Z1 \sim 4$ の単価・積算地区、積算年月・

※標準単価 P ・機労材の構成比 $K1r \sim Zr$ ・単価 $K1t, K1t' \sim Z4t, Z4t'$ は、「施工パッケージ型積算方式標準単価表」の該当部分を用いる。

2) 以下の点を考慮して P' を計算する。

- ・日当り施工量を 1.2 倍する。
- ・労務（普通作業員，特殊作業員）を 2/3 倍する。

$$P' = P \times \left\{ \left(\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2r}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{1}{1.2} \right) \times \frac{K_r}{K1r + K2r + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} \times \frac{1}{1.2} + \left(\frac{R2r}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} + \frac{R3r}{100} \times \frac{R3t'}{R3t} \right) \times \frac{2}{3} \right) \times \frac{R_r}{R1r + R2r + R3r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} \times \frac{1}{1.2} + \frac{Z2r}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \right) \times \frac{Z_r}{Z1r + Z2r} \\ \left. + \frac{100 - K_r - R_r - Z_r}{100} \right\}$$

※ P' は有効数字 4 桁，5 桁目切り上げ。

※ $K1$ をモータグレーダ， $K2$ をロードローラ， $K3$ をタイヤローラ， $R1$ を運転手（特殊）， $R2$ を普通作業員， $R3$ を土木一般世話役， $Z1$ を軽油， $Z2$ を路盤材とする。

3) 「I C T建設機械経費」別途必要経費 49,000 円/日を単価表で加算

・なお、日当り単価なので以下の通り施工単価換算 P_{ICT} として P' に加算。

$$\bullet P_{ICT}(\text{円}/\text{m}^2) = 49,000(\text{円}/\text{日}) \times \frac{1}{\text{作業日当り標準作業量} \times 1.2(\text{m}^2/\text{日})}$$

・作業日当り標準作業量は土木工事標準歩掛（施工パッケージ型積算基準編）掲載値とする。